

水俣市の観光業活性化による地域振興

～Minamata Linking Pass～

熊本県立大学/KAOMISHIRI (行政学研究室/井寺ゼミ)

岩本桃幸/黒田真琴/藤井芽生/山田純大

地域課題の選択

③【自由設定】選択地域:熊本県水俣市 / 設定課題:水俣市の観光業活性化に資する取り組みについて

1. はじめに

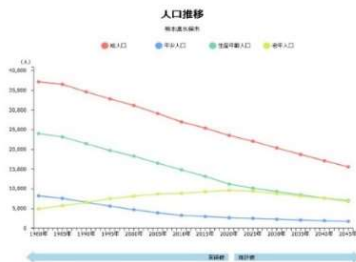
熊本県水俣市の総人口は1960年をピークに減り続けており、加えて高齢化の進行が熊本県の平均より早いペースで進行している。これらの課題を解決するために、現在、水俣市ではエコパーク水俣や温泉街などの多彩な観光資源を基盤とした政策が計画・実行されている。そこで、それらの観光資源を最大限活用することにより、交流人口の増加を目標とした新たな政策アイデアを提案する。

2. 現状分析/調査内容

(1) 水俣市の現状分析

令和5年度の水俣市観光振興計画(以下「でかっか水俣」という。)によると、水俣市の人口は令和4年で22802人であり、熊本県内14市の中でワーストである。また、それと同時に水俣市では高齢化の進行が熊本県の平均より10年以上早いペースで進んでおり、社人研の推測値によると、2040年頃には生産年齢人口と65歳以上の人口がほぼ同数という水準に達すると推測されている(図1)。

図1 水俣市の人口推移



(出典)社人研「日本の地域別将来推計人口」

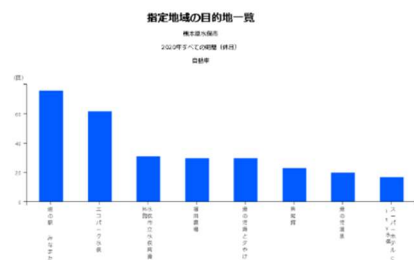
加えて、財政の硬直化において2022年度は県内

でもワーストであり、このままの状態が続くと最悪の場合、水俣市は消滅してしまう可能性があると考える。

(2) 水俣市の観光資源

水俣市が実施した「みなまた観光応援券アンケート」によると、水俣市を宿泊旅行先に選んだ理由を「観光・温泉」と選択した人が42.8%であり、回答者の約半数が観光や温泉を目的に水俣を訪れていることが分かる。また、水俣市には湯の児温泉・湯の鶴温泉などの有名な温泉地やマリンアクティビティ、バラ園などの多様な観光資源が多くある。その中でも観光以外の目的地として、エコパーク水俣や同区区内にある道の駅みなまたの集客率が非常に高いことが分かる(図2)。このエコパーク水俣には、多種多様なスポーツ施設のほか、リニューアルした道の駅などが整備されている。

図2 指定地域の目的地一覧



(出典)株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」より

(3) 観光面での課題

上記のように水俣市には多様な観光資源という強みがあり、特にエコパーク水俣の集客率は他地域と比較しても非常に高い比率を保っている。しかし、これらの観光資源にも様々な課題が生じている。例えば、湯の鶴温泉は700年の歴史ある温泉地で「新・日本

百名湯」に選出されている温泉である一方、2019年時点での宿泊者数は7202人、2021年時点では4390人にまで減少している。また、昭和50年には宿が10軒、商店が14軒と賑わっていたが、現在は宿が5軒、商店は3軒まで減り、建物の老朽化などの課題も発生している。

更には、エコパーク水俣の高い集客率を湯の児・湯の鶴温泉などの他の魅力的な観光資源に十分に活かしていない。

3. 課題に対する解決策と具体的な政策アイデア

(1) 政策アイデア「Minamata Linking Pass」

以上の考察から、エコパーク水俣を中心とし、他の観光資源や飲食店、アクティビティ施設と連携させる政策アイデア「Minamata Linking Pass」を提案する。この取り組みは、エコパーク水俣を訪れた新規顧客に「フリーパスバンド」を購入してもらい、それを温泉地、飲食店、マリンアクティビティができる施設等で提示してもらうことで、様々な特別特典を受けることができるという仕組みである。具体的に、「温泉地では有効期限内であれば好きな温泉に入り放題」、「水俣市街地の飲食店では割引を受けることができる」、また「その他エコパーク水俣内の有料スポーツ施設やマリンアクティビティができる施設でも割引を受けることができる」等の特典を設ける。温泉施設のみ制限を設けず入り放題にした理由は、水俣市の温泉施設は全国と比較してもリピート率が高くなっているため、より多くの施設を利用し自分好みの温泉を発見してもらい、リピーターを増やすためである。先行事例として「ふたりぼっちパスポート」と「銀山パスポート」を挙げる。これらの取り組みは、パスポートを購入することで対象商品をお得に購入することが可能になり、さらには無料で利用可能施設に入場することができる取り組みである。

(2) 期待される効果

観光ニーズを把握するために水俣市が実施したアンケート調査結果によれば、宿泊施設を選んだ理由として、44.7%の回答者が「以前利用したから」と回答している。一般的に宿泊施設のリピーター比率は

10~30%が平均であるため、水俣市の温泉施設のリピーター率は高いことが分かる。そのため、「Minamata Linking Pass」を導入することで、エコパーク水俣へ立ち寄る観光目的ではない利用者や来訪者を観光地へと誘客する手段となり、新規顧客の獲得へ繋がる可能性がある。温泉街など水俣市の観光資源を知ってもらうことで新たなリピーターを創出することができ、持続的な観光地としての発展を見込むことができる。

(3) 考えられるリスクとその解決策

本アイデアの導入にはフリーパスバンドの制作費や広告費、割引に係る補助などの費用のための予算化が必要である。しかし、水俣市の観光振興計画にも温泉地とエコパーク水俣を活かした観光が推進されているため、それらの予算化の実現可能性はある。また、各観光施設の連携が欠かせない取り組みであるが、水俣観光物産協会を中心に前述した先行事例などを推奨して団体間の連携を執り行うことで解消できると考える。

4. まとめ・今後の展望など

今回の提案にあたって水俣市役所の担当部署に直接お話しを聞くことができ、よりアイデアを深めることが出来た。今回の政策アイデアを提案することにより水俣市の地域課題を解決し、地域振興に貢献したいと考える。

参考文献

- ・水俣市 水俣市観光振興計画「でかっか水俣」
(https://www.city.minamata.lg.jp/kiji0033297/3_3297_up_0enkggyo.pdf)
- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp>)
- ・島根県大田市観光サイト
(<https://www.ginzan-wm.jp>)
- ・十勝シーニングバイウェイ (<http://www.t-scenic.com/tokapuchi/fanclub/>)